郷土史 ていね

第２号

平成２０年２月１３日

手稲郷土史研究会会報

新春のトップを飾って　田中　和夫先生の講演…

手稲の交通史　明らかに！！

２００８年1月９日

「軽川停車場、軽石馬鉄駅から手稲駅へ」－鉄道よもやま話―

手稲にお住まいの講師という親近感もあって、大変難解な交通史も、先生の用意された・交通古写真・大正５年地図・小樽～札幌間明治初期交通略年表、のお陰で、約２時間のご講演もまたたく間に過ぎていきました。身近な手稲史から関連ある北海道史にまで及ぶ、正に郷土史の真髄に触れた思いです。

私たち手稲区民の目と鼻の先にあるＪＲは、明治１３年開業以来の歴史があり、先生ご自身が長年車掌として国鉄に乗務されていた実体験から語られるのですから、説明のひとつひとつが重みのあるものでした。

以下、幾つかの項を起こしてご報告します。

・幌内炭山の発見から鉄道建設へ

幌内炭山の発見から日本の近代工業の礎という視点での鉄道建設、それに伴って明治１６年幌内鉄道開業に至る、幕末から明治初期の開拓使期に、きら星のように多くの人物が登場してきました。

明治５年札幌に寄留の早川長十郎なる人物と榎本武揚との出会い、その中でも圧巻は、この榎本と黒田清隆との人間的な交流でしょうか。箱館戦争（戊辰戦争）での榎本の降伏と彼への助命願いに奔走する、新政府軍の参謀格黒田、やがて明治政府で開拓使の次官、長官へと上りつめていく黒田の側で、明治５年には、開拓使の一員に登用され、専門的な地質の知識をもって幌内の調査に早川と出向く榎本、実に鉄道開業の胎動物語の如くです。

付言するなら、榎本の父は、蝦夷地測量の伊能忠敬の内弟子であり、榎本自身も箱館奉行堀利熙（としひろ）の小姓でした。

・箱館戦争の終焉期

明治２年の箱館戦争終焉で、矢継ぎ早に開拓使設置、蝦夷地から北海道への改称、島義勇判官の札幌本府建設、アイヌの人がわずかに見られた「サッポロ」に、銭函から札幌への烽火をたよりに道作りをしながらの島判官、この歴史上の人物は、確かに手稲の原野を往復したのです。

・路線決定まで

幌内炭の搬出路をめぐって、外国人技師による熾烈な調査報告も交わされます。幾多の曲折の末、明治１１年当時モスクワ在勤の榎本が推すオランダ人ファン・ゲントの石狩川水運説は、大洪水、川舟の難、石狩川の氷結、石炭のみの運輸、川の改修、新港建設等々で、ゲント自身断念せざるを得ませんでした。

相対するケプロン、アンチセル、ライマンの流れで、アメリカから明治１１年陸路説をとるクロフォードの来日でした。言わずもがなの結論で、手宮のクロフォードの銅像を思い浮かべることができるでしょう。

・札樽国道の建設

幕末の頃の踏み分け道から始まった、現札樽国道の道路建設の難所は、張碓のカムイコタンでした。それをものの見事に車馬道に開削したのは、クロフォードや開拓使の技師たちでした。

これからの小樽行きの車窓は、明治１２年の古写真に見える車馬道や「義経トンネル」、更にはアサリ辺の古道などで、懐かしくタイムスリップしてながめられそうです。歴史学習の面白みでしょうか。

その車馬道が、あっという間に石炭搬出ルートの幌内鉄道に姿を変え、明治１３年１１月中には手宮～札幌間の汽車運転が始まったのです。

この後の車馬道の運命は？軍事道路、昭和９年の新国道開削等々、私たちの例会でしっかりと学習し合いましょう。

・軽川駅の誕生

私どもの軽川にも、明治１４年１１月２５日「軽川フラグステーション（簡易停車場）」開業、明治１７年８月１５日には、停車場本屋が完成して停車場へと昇格してきたことも知りました。

約１３０年前のできごとから一足飛びに現在の手稲駅に目を転じると、札幌についで道内２番目の乗客数でにぎわう姿が映し出されてくるのです。

・鉄道の発達

さて全道一円に鉄道網が張り巡らされた大正５年には、鉄道１０００マイル記念が催され、各地に軽便鉄道も開業されてきました。「軽石軌道会社」、私たちの例会でも話題にしてきた「ガルイシ」が、記録上に残っていると云うことが明らかになりました。この馬鉄の諸々の歴史も理解できましたので大事に記録していきたいですね。

この他にも「日石北海道製油所」「手稲鉱山」等にも及び、全て手稲駅とからめて語っていただきましたので、何かしら歴史の因果関係のようなものが、ひしひしと伝わってくる感じがしました。
以上、やや意の尽くせない独断的なまとめの箇所も多々あろうかと思いますがお許しください。

（文責　茂内）

郷　土　史　夜　話

光風館と手稲温泉北家　　語り部　菅野　博子氏
解説　野村　武雄会員

時間があまり無く、資料を用意していただいたのですが、駆け足の説明となり残念でした。
光風館については、創立者の娘さんからの聞き取り調査の様子が伝えられ、地図も添えられて興味深い内容となっていました。機会があれば、詳しいお話をお聞きしたいですね。

手稲山登山絵葉書　　**資料提供者**　　**福井　卓治氏（郵政史研究家　前田在住）**

資料解説　　**茂内　義男会員**

手稲山登山が、記念絵葉書の発行されるほどのイベントだったというのは、意外でした。観光名所だったのでしょうか。

趣のある絵葉書の写真を資料としていただいた他に、現物の葉書も一枚回覧させていただきました。

見慣れた手稲山も、こうして見ると、また違った表情です。

広報編集部より

手稲山は、聳えているというより寝釈迦のように横たわって、まるで人々を見守っているようですね。その手稲山を見ながら車を走らせると、大抵は目的地にたどり着くことができます。いろいろな意味で方向を見失ったときの心のよりどころになります。

そして平成１７年９月手稲郷土史研究会が発足しました。活動は月１回、茂内先生による郷土史講義や著名な先生方の出前講座、そして会員による研究発表など。時には史跡めぐりツアーもありました。

広報に籍をおきながら、何もしなかったことに後ろめたさを感じながら、ようやく１月会報の創刊号発行にこぎつけました。諸先生方の尽力の賜物です。特に鈴木さんには、この季節たくさんの汗を流していただきました。ありがとうございました。

今後は２ページ程度で、例会の報告と会員相互の交流の場となるような、読んで楽しい会報にしていきたいと考えております。

広報　高木

＊　投稿のお願い＊

皆さんからの投稿をお待ちしています。ご自身が知っている手稲の話、例会の感想や、日々感じていること、川柳など自由にご投稿ください。

原稿は、例会の際　広報担当　高木・佐藤へ　お渡しください。

＊次回例会＊　　**後援　手稲区・手稲区民センター・手稲区連絡協議会・郷土資料館設置期成会**

第２３回　３月１２日（水）

１　講話　「小樽・手稲交流史・・(銭函、山口、花畔運河の掘削と役割、小樽内アイヌ等)」　９０分

　講師　竹内　勝治（小樽市博物館歴史文化調査会会員）

２　１９年度を顧みて、新年度への展望・企画懇談

　郷土史夜話　最終回

＊会員募集＊

お知り合いなどで入会を希望される方がいらっしゃいましたら、事務局まで　ご連絡ください。